田中家通信

発行
田中家石材
彦根市高宮町108-1
Tel. 0749-24-2789
VOL. 2

正月も盆もおめでとう。先祖がやってくる。

私達の祖先が行ってきたいろんな行事のなかで、正月と盆はどんな考えをもって祖先はこれに対していたのであろうか・・・。

正月が**「めでたい日」**であることは、だれにもわかるが、盆を「めでたい日」とは、まずたいていの人は言わない。これは現代の考えである。

ところが、地方によると盆も**「おめでとう」**という所があるからおもしろい。祭りをする人は、自分の行いを慎み、忌まわしいものには触れず、心を静かにして、なごやかにすごすのが祝いであり、その慎みが完全に守られている人を、**めでたい人**といったのである。現代で言う**「めでたい人」**とは、だいぶ違うわけです。したがって、盆も正月も、子ども達には泣くな、ケンカするな、叱られるようなことはするな、と戒めてきた。

また無事に一年を重ねたという悦びとともに、来年もよい年であれと自分の行いについても、先に述べたように心身ともに清らかに慎み深くしていたのである。それが、中世以来、福徳の追加という**中国思想**が入ってきて、欲の深い祈りにまでなったけれども、元来、年頭の言葉といえば**「ご無事で相かわりませず・・・」**なのである。

武士団では、年頭の参賀を式として、すべての配下のものも出頭し、その家を中心に忠誠を表示する機会とした。**〝家来〟**というのを、**〝家礼〟**と書くことがあるが、これは家の一族とともに礼儀を尽くしたということであったらしい。これらのことが、近世になると、一般の人々まで普及し、年頭の言葉を交わし、**謹賀新年の賀状**を出し、社交の大きな機会となってきたのである。もとを正せば、**正月**も**盆**も家で灯明を献じて**先祖の霊を祭り**、霊がもどってくる嬉しい再会の機会の日であり、先祖とともに生活してそれを祝うという、めでたい意味があったのです。もっとも正月は、初春の神を迎えるときだと考えたが、その神は何様であるかということになると、昔はだれもハッキリ意識しなかった。ただ年の暮れには、**伊勢のおはらいの札**が渡って、人々はこれを**神棚**におさめ灯明をともして、一族一門が**「おめでとう」**を交換したのである。正月の神を拝む気持ちが、国家の宗廟を拝む気持ちに転化していったのは、後世になってのことで、いまはこれに近い気持ちで、家の神を拝むように変遷してきている。

年を迎える古来からの習慣のなかには、必ず祝い慎むものだけに神が個々に訪れるという思想があった。正月に家々を訪ねて、私達の祀りをたすけてくれる神様を、国民の大多数は実をいうと、**年神様、歳徳様、正月様**と思っているが、それを口にしないのが、日本人の持つ慎みだと考えてきたのである。

新米の俵を積んで祀り、枝ぶりのいい松を山から切って持ち帰り、紅白の幣(ぬき)をかけ山から祖霊となった祖先とともに、神を迎えてきたと考える地方もあった。そのしきたりが、今の**門松**となっているのである。そこで師走の十三日に「松むかえ申す」といって、正月までお松さまは休ませるというのである。年ごとにやって来る年の神は、商家にしてみれば**福の神**であり、農家では**御田の神**であったろう。それは仏教や神道の書物にもないことであり、その神は各々の家を富ませ、家督の生産力を発揮するとされてきた。そうした神は、たえず祀るものの上だけにあって、それはまた新たなる死者への追慕の情愛と、祖霊への信仰を除いては考えられないことなのである。

その神は、歳徳神という仙人のような人のことだと考えてきた。また**福禄寿**のような老人を考えていた。いずれにせよ、**高砂の尉**(じょう)と**姥**(うば)のような、白髪の老夫婦が、ほうふつとして現れるのだとおもっていた。地方によっては**サンタクロース**と同じだというところもあるそうだ。正月はもちろん、お盆にもこうした祖先が、その子孫のもとへ、しかも素直で慎み深い子孫のもとへ、氏神とともに帰って来るというのだ。これほど、**平和で豊かな世界**はまたとない。

ハレ着のハレとは?

日本の民俗学では、**ハレ**と**ケ**ということがよくいわれる。**ハレ**というのは、たとえばお祭の日であり、あるいはさまざまの年中行事のある日のことだ。そして**ケ**というのは、ふだんの日を意味する。

ふだんの日は単調な生活の繰り返しである。単調な中にも喜びはあろうが、どちらかといえばそれは平凡な毎日だ。そのような日常のところどころに**ハレの日**がちりばめられている。ハレの日にはたべものも、たとえば赤飯とか餅とかいったような特殊なたべものになるし、着るものも**ハレ着**に着かえることになる。ハレの日は、朝からすべてが日常離れしているのである。**昔は、酒もハレの日以外には飲まなかった。**日常というものが単調で平凡であればあるだけ、ハレの日はがらりと変わった生活の工夫で満たされていたのである。そしてハレとケを交互に織りまぜることによって、社会生活も人生も楽しい変化を持つことができたのだ。

日本だけでなく世界のあらゆる文化は、ハレとケを持っている。ふだんには許されないようなことがハレの日には許されたり、ふだんには食べられないようなごちそうがハレの日には用意されたりする。西洋における**クリスマス**や**復活祭**などは、あきらかにキリスト教社会におけるハレの行事であり得る。仮に、このようなハレの日を**「おまつり」**ということばで締めくくることができるとするならば、**「おまつり」**は人類共通の習慣、あるいは制度と考えて差しつかえない。

もちろんその信ずる宗教がちがい、また伝統がちがうことによって「おまつり」にともなうさまざまな習俗は多様であろう。しかし「おまつり」、すなわちハレの日の人間の心の状態は、宗教のちがい伝統のちがいにもかかわらずかなり均質的なのではないだろうか。**クリスマス**であろうと**お正月**であろうと、そういうハレの日をむかえる人間の心は朝から何となくうきうきしている。ふだんの心が平静であるとすれば、ハレの日の心は何らかの形で興奮している。

創業 明治四十一年 **株式会社 田中家石材**
(お墓)(墓地)等、石に関するご相談は
0120-68-1082
■会社概要
●許可登録／滋賀県知事許可 第〇五一二七四号
●営業品目／寺院関連製品(各宗派吉相墓・記念碑等)
社寺関連製品(鳥居・記念碑・狛犬・灯籠・玉垣等)
環境石材製品・モニュメント・公園石施設・美術工芸品等
化石・鉱物・宝石・岩石・珍石等
●技術資格／厚生労働大臣認定 石積一級技能士
厚生労働大臣認定 石貼一級技能士
厚生労働大臣認定 石材加工一級技能士
◆松下電工労働組合加盟店 ◆ブリヂストン生協加盟店 ◆財務省印刷局彦根朝陽会加盟店
全優石 全国優良石材店
田中家石材 創業九十年
高級墓石、常時百基を大切に「屋内展示」致しております。